

季節を詠む、
時流を詠む

四季の歌



美野里短歌クラブ

幸せの鐘鳴り響き晴れやかに甥の祝いの席に着きたり
母の日のプレゼントとか大好きなお鮎を娘にご馳走されたり
芋ふかす時間知らせるタイマーに返事しながら腰をあげたり
つつがなく今宵しようぶ湯ゆったりと老いゆく吾が身の幸せ思う
爆撃の音が聞こゆるウクライナテレビに映る顔のかなしき

小川短歌会

美容師に髪をゆだねて暫しの間やすらぎいたる嫁たりしころ
高齢の吾を気づかい元氣かと車を止めて農協職員
肩くみて唄いしロシア民謡若き日よあの長調に癒されていた
小幡城址の土塁は高しうす暗き堀底道に落葉しきつむ

玉里短歌会

草叢に骨組のみの防災塔避難急かせし娘も犠牲者に
少子化に日本はやがて消えるという今年生まれし孫を案じる
湖の波静まりて暮るる空筑波の峰の残映赤し
若竹のかすかに揺れる日の暮れに爆音立てて走る若者
残雪に足をふんばり立っている白神山地のもえぎ色の山毛櫨
(訂正) 7月号 鶴町文男さんの短歌 正「キャベツ」 誤「キャベジ」

寄稿

日を送くるまとまりつかずに今日も暮れ

菱 沼 清 子	菱 沼 友 江	宇 都 宮 和 子	碓 谷 清 香	白 根 澤 清 香	石 田 是 江	根 本 智 恵 子	幡 谷 啓 子	中 根 良 子	野 口 初 江	松 田 通 喜	石 橋 吉 生	鶴 町 文 男	高 田 久 子	深 作 茂 登 子
---------	---------	-----------	---------	-----------	---------	-----------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	-----------

みづうみ俳句会

向日葵の高さに風の行方かな
ひまわりの迷路で子等のかくれんぼ
ひまわりの葉っぱもよれるもえる午後
夏めくや衾あし白き束ね髪
五時半に水かけ声かけ夏の庭

みのり俳句会

自由旅たんぼの絮風まかせ
筒の今日の高さに負けにけり
果たせない約束となり春なかば
声のして姿は見えず揚雲雀
今年また一句をもらう青蛙

櫨の会

紫陽花の今生の彩出しきりぬ
高僧の袈裟の綻び梅雨曇り
行々子思いの丈を子の泣けり
青田風牛呼ぶ父の背中かな
音のない音の白さや鷺の佇つ

くるみ俳句会

異国にも青空の下麦の秋
さくらんぼひいふうみいと数える子
媼にも願う事あり星まつり
白南風を受けて城跡松ゆるる
露天風呂月下美人の白き肌

たまり俳句会

日めくりも半分になり六月尽
リハビリや一步一步に汗まみれ
打ち水や小さき虹を拾ふ子ら
風薫る白き浮雲流れ行く
火伏神へ急な石段夏落葉

小美玉川柳会

好きになる季節寝ぼけの春キャベツ
グレーヘアー妻のルージュは薔薇の色
この猛暑ケンカの種は発芽せず
次の矢を放せず散ったテロの前
骨董品露の戦争は展示会

榎 本 喜 代 子	長 島 さ 江 昭	長 島 久 美 子	長 島 美 奈 子	塚 田 文 清	友 水 清 子	佐 藤 清 心	島 田 草 香	白 根 澤 清 香	井 坂 あ さ	矢 口 富 久 さ	網 代 奈 津 江	石 田 敏 江	木 村 小 夜 子	堀 内 い ず み	松 崎 淑 子	安 彦 昭 子	小 原 エ ミ	大 曾 根 宣	小 玉 知 子	齊 藤 富 子	ま ち す け	鶴 町 文 男	野 口 初 江	下 重 悟 史	原 富 貴 子	枝 川 白 水	大 盛 食 堂	梶 原 平
-----------	-----------	-----------	-----------	---------	---------	---------	---------	-----------	---------	-----------	-----------	---------	-----------	-----------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	-------